

再生短信

大地のメッセージ

大地の芸術祭2018 飯舘村・再生の会視察団同行記



13



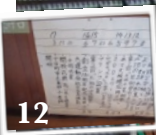
1



2



3



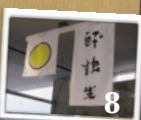
12



11



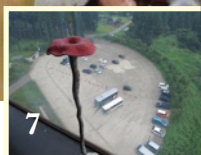
10



8



9



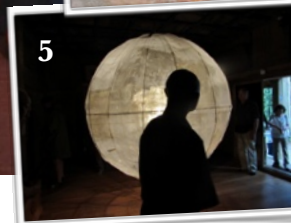
7



6



4



5



北川フラム

廃校の年残っていたのはユウキ、ケンタ、ユカの三人でした。今も廊下に残して貼ってある、子どもたちが書いた真田小学校の歴史年表(写真12)を見ると、目頭が熱くなるのは、2000年第1回の芸術祭、2003年第2回の芸術祭など、この学校の生徒たちに与えた芸術祭の楽しさです(写真10～11)。(北川フラム『ひらく美術—地域と人間のつながりを取り戻す』筑摩書房、2015年)

【カット写真】1～3.「ポチョムキン」。カサグランデ&リンターウ建築事務所(フィンランド)作。4～5.エマ・マリグ(チリ)作「アトラスの哀歌」。中条・高麗神社拝殿。6～7.「越後松之山「森の学校」キョロ口」。手塚貴晴+由比作。8～9. KIGI作「スタンディング酒BAR 酔独楽・よいごま」。10～12.「鉢&田島征三 絵本と木の葉の美術館」。田島征三作。年表に廃校の年を刻む元真田小学校。13.「棚田」。棚田がそのまま自然の画布となる。イリヤ&エミリア・カバコフ(ロシア)作。【背景写真】「うぶすなの家」。茅葺き民家を「やきもの」で再生。展示と食事の一体化、食器も全て作品、二階に三つの茶室。入澤美時、安藤邦廣作。

2018年8月30/31日、記者はく大地の芸術祭／越後妻有アートトリエンナーレ2018＞視察団に同行した。今回の視察は再生の会が企画し飯舘村との協働により実現した。視察は芸術祭の総合ディレクター・北川フラムさん自身による案内と説明により進行、菅野典雄村長は31日に合流し十日町市と津南町の関係機関と交流懇

談。3年毎に開催されるアートトリエンナーレは2000年に始まり今年は7月29日～9月17日、世界から50万人の参観者を集めた。ガイドマップに掲載されている作家だけで三百人以上。

ポチョムキンの赤錆びた鉄塊は近代文明の無念を象徴しながら、自然に内包される人間の姿を静かに問う。ふと目を彼方にやると信濃川の対岸

には大地の生命の証し・一筋の滝を望む。アトラスの哀歌の作者は神社の拝殿を創作の場とした。ありがたみが込み上げてくる作品だ。寺社が多いのは人の往来交流が盛んな証し、ながいあいだの自然とのかかわりあいでも生まれた「里山」に集約される世界にアートが寄りそう、フラムさんのことばである。

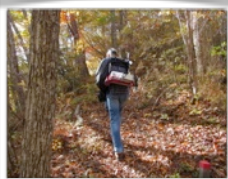
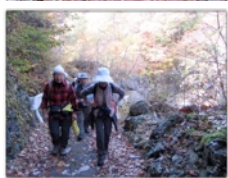
(撮影・文責：若林一平)

ふくしま 再生 短信

2018/11/4 野手上山ハイキングと溪谷散策同行記

※ 山頂のホットワイン ※

2018年11月4日8時霊山センターを出発、誠に美事な秋晴れの下、野手上山（のてがみやま）ハイキングが



（写真上から）比曽川溪谷は全山紅葉。新田川溪谷の巨岩をくり抜いたトンネル。新田川溪谷沿いを健脚自慢の隊列が進む。この日のヒーロー・放射線測定器具一式を背負い登坂する増田さん。

始まる。リーダー兼ガイド・小原壮二さん以下総勢九名参加、風兼（ふがね）ダムまで車3台で移動後、スタート地点の野手神山神社大鳥居に集合、山の守り神に一同神妙にご挨拶。まずは比曽川溪谷沿いを下りながら全山紅葉を楽

しみ、10時新田川（にいだがわ）との合流地点で小休止。栄子さん差し入れの胡瓜、矢野さん手作



（写真）山頂のランチタイム



（写真）野手神山神社大鳥居：ハイキング出発地点、赤色パーカーは小原ガイド。

りの漬物、小原さん持参のチーズをいただく。新田川溪谷沿いの緩い登りは巨岩と滝の織りなす絶景の連続。11時過ぎ登山口到着、小休止。

ここからいよいよナラの森コースの登りに入る。再生の会の健脚軍団は急坂を物ともせず、13時標高628mの山頂ランチタイム、永徳さんの奥さん、和子さんからの差し入れのもち米入りのおにぎりに幸せ体感。小原ガイ

ドはバーナーを取り出してホットワインを振る舞う粋な計ら

い。これぞ最高のお神酒。急坂を下り14時50分佐須に帰還。中町さん「初めての紅葉幸せイッパイ」矢野さん「贅沢な時間に大満足」増田さん「（機材担当）無事に終わりホッと」。秋天好日。

（文責・撮影：若林一平）



（写真上から）ナラの森コースで菅野永徳さんが見つけたムラサキシメジ。菅野栄子さん差し入れの胡瓜と小原・徳田チーム特製お握り。

まりしてん 摩利支天

◆野手上山は、野手神森と言われ古くからの行者の修行場として知られ幾多の逸話が残されている。昔から天狗が住む山として信仰されてきた。中央（山頂）に祭られている摩利支天の化身（写真右）はすなわち

天狗である。又、山神、古峰の大神を合わせて野手神山神社と称されている。（野手神山神社解説板より）

◆摩利支天、元はサンスクリット語、威光。陽焰と訳されている。摩利支天菩薩とも。みずからの姿を隠し、障害を

除いて利益（りやく）を施す天部で梵天の子として古代インドの民間で信仰され、後

に仏教に取り入れられた。・・・（『平凡社世界大百科事典、2009年版』）

◆山の神々は神仏が混濁する協奏の世界である。



ふくしま 再生 短信

追悼 菅野次男さん



誠に凛々しい次男さん
2018年5月／田植



早苗饗の熱唱／2016年5月



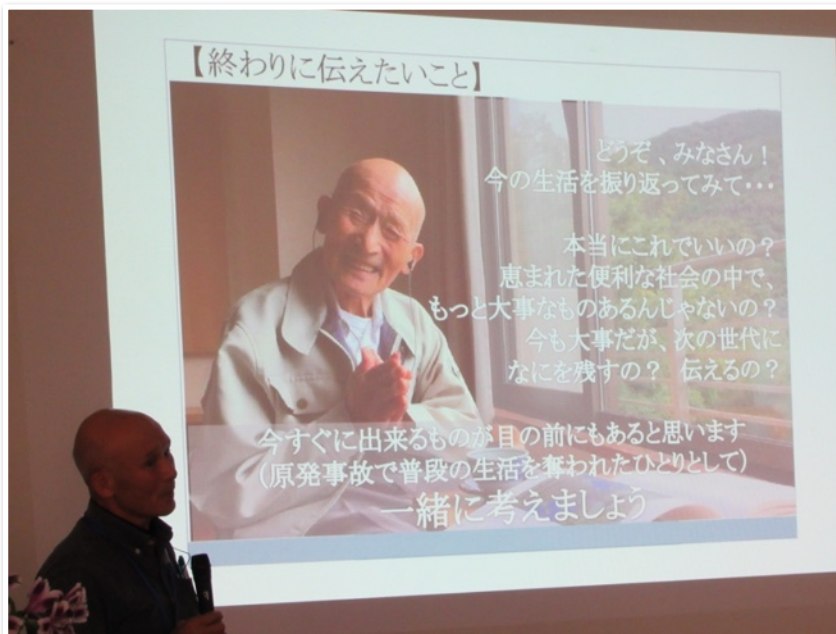
ボーリング大会準優勝
2017年8月／佐須老人クラブ

✕ もっと大事なもの ✕

2018年9月29日、菅野宗夫家のおじいちゃん菅野次男さんが静かに旅立った。1923年（大正12年）8月15日生まれ享年95歳。

ふくしま再生の会理事長・田尾陽一さんの追悼文（10月4日）は<<https://www.facebook.com/FukushimaSaisei>>へ。

次男さんは20歳で招集され大東亜戦争に従軍、九死に一生を得て奇跡的に生還（下記コラ



もっと大事なものがあるんじゃないの？／宗夫さんから・2018年2月杉並報告会

ム参照）後、家業に専念農業を営む傍ら、佐須行政区長、地区公民館長を務める。

2018年2月宗夫さんが次男さんに代わり訴える【終わりに伝えたいこと】「どうぞ、みなさん！今の生活を振り返ってみて... 本当にこれでいいの？ 恵まれた便利な社会の中で、もっと大事なものがあるんじゃないの？ 今も大事だが、次の世代になにを残すの？ 伝えるの？」次男さんが語りかけている。合掌。（文責・撮影・若林一平）



従軍

昭和18年12月18日次男さんは現役兵として朝鮮羅南歩兵第76連隊補充隊に入隊（写真左）。昭和19

年12月20日南方比島方面派遣要員として編成され羅南出航、釜山、下関を経て12隻の輸送船団が2隻の駆逐艦に護衛されて南下するも敵潜水艦・グラマン戦闘機の攻撃下台湾高雄港に入港したのは次男さんの乗船艦含めて2隻。台北地区に移

駐、同地区沿岸の守備に従事、8月15日終戦、以後昭和21年4月15日まで補助憲兵として勤務。同年4月21日帰還のため基隆港出帆、28日鹿児島港に上陸し復員。（『飯館村従軍史』、飯館村従軍史編集委員会、昭和59年4月25日発行）

ふくしま 再生 短信

2018/9/30 佐須老人クラブ民謡公演

※ 相馬恋しやなつかしや ※ ＜ 新 相 馬 節 ＞

2018年9月30日午前10時50分より佐須公民館（旧佐須



小)で佐須老人会開催、冒頭に菅野永徳会長から「菅野宗夫家のお祖父ちゃん・次男さんが昨日天寿を全うされた。本日は皆の心をひとつにして相

大内定子さん＜相馬二偏返し＞馬の歌でお送りしたい」との挨拶があった。振り返ってみると、2014年4月13日小宮地区大久保金一農園マキバノハナヅノでの桜の植樹祭の最後に歌い上げた菅野次男さんの新相馬盆歌

(動画リンク)の合いの手＜ナンダコラヨート＞はまことに記憶に新しい。

相馬民謡堀内流飯館同好会(会長・大内定子さん)



のみなさんが紹介されこの日の公演が始まった。始

老人クラブのみなさん

まりは「さんさ時雨」、仙台藩にゆかりがあるという古い民謡である。「相馬草刈り歌」はつい踊りだしたくなり元気が出てくる、合いの手＜ナンダコラヨート＞が嬉しい。「北方二偏返し」に続いて「相馬二偏返し」では＜伊達と相馬の境の桜(ハアコラヤノヤ)＞、心に響くくだりだ。



杉岡秀爽さん＜相馬節＞

「新相馬節」、「相馬土搗き唄(うつきうた)」、「かんちょろりん節」、「相馬大漁祝い唄」、「相馬

節」と続く。「相馬節」＜ハー 相馬相馬と木萱もなびくナンダコラヨート(アー チョイ チョイト)＞の後、ハーモニカ演奏を挟んでトリは「相馬流れ山」、相馬武士が正装で登場、法螺貝と陣太鼓が響き渡り相馬野馬追いを彷彿とさせる勇壮かつ威厳のある神々への奉納のフィナーレとなった。

(文責&撮影・若林一平)



相馬武士が歌い舞う
「相馬流れ山」

相馬民謡堀内流

この日の出演のみなさんは「相馬民謡堀内流飯館同好会」の方々である。同好会会長・大内定子さんは同流師範の資格をお持ちの方で、2代目家元の杉本秀澄先生から直接指導を受けている。同好会の揃いの着物の意匠は野馬追いの馬をあしらっている。杉岡秀爽さんも師範の資格

をお持ちの方である。大内さんが心配されているのは後継者が育っておらず、このままでは堀内流の伝統はご自分の代で途絶えてしまうことである。できれば若い世代の後継者が現

れてくれることを願うばかりである。



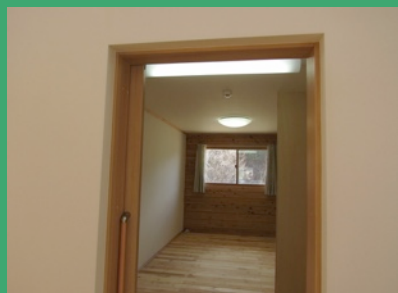
【写真は同好会のみなさん：前列左から、大内定子さん、小林美恵子さん、後列左から、佐藤口クさん、高橋サキ子さん、杉岡秀爽さん、佐藤公喜さん、佐藤茂さん】

ふくしま

再生 短信

飯館村佐須行政区地域活性化協議会
3/24 「体験宿泊施設」 (仮称) 竣工式・落成式

次世代への架橋に



2019年3月24日午前10時、飯館村佐須地区旧佐須小学校体育館東脇において、村民ほか70余名参加し飯館村佐須行政区地域活性化協議会（会長・菅野宗夫さん）および認定NPO法人ふくしま再生の会（理事長・田尾陽一さん）共催により「体験宿泊施設」（仮称）竣工式・落成式が田尾さんの司会で進行。



写真(上から):
健康医療ケアチ

ーム挨拶。協議会副会長・佐藤公一さんから(株)芳賀沼製作に感謝状。東京芸大・武蔵美生は施設総合企画展示。

山津見神社 権禰宜・加藤 啓介さんの神事により竣工式を恙無く終えた後、協議会会長・菅野宗夫さんが「非日常の日常化の中で次世代にどう繋ぐか模索、昨10月農政局から農泊事業へ交付決定、厳寒の最中再生の会

のコーディネートで突貫工事、移築した仮設のログハウスの重みを受けとめふれあい交流に活用して参りたい」と経過報告。菅野典雄村長「思いやりの心が大切、佐須の取組に注目」菅野新一村会議長「交流人口増に期待」健康医療ケアチーム・相澤力さん・中町芙佐子さん「100歳まで上手に生活」。(株)芳賀沼製作様と(株)大槻様に感謝状贈呈、芳賀沼伸社長「仮設住宅は移築再生を意識、息の長い取組み」大槻卓也社長「地域の先人の知恵借りて水確保実現」。田尾さん「150名以上から300万円超の寄付、故清水韶光氏

(高エネルギー加速器研究機構名誉教授) 遺贈基金に謝意」。乾杯音頭は協議会顧問・菅野永徳さん。内覧会の後、12時公民館で昼食会、愚真会(佐藤公一会長)そば打ち実演、村の野菜天、お赤飯と共に振舞われた。相澤医師講話「笹を食べているパンダはなぜ筋肉隆々なのかー腸内細菌との共生ー」あり、13時会を閉めた。(文責・撮影:若林一平)

写真(左上から時計回り):竣工式でお祝いを受ける宗夫さん。菅野典雄村長から落成お祝い。施設東面エントランス。同南面。同北西面。客室入り口。